

米、担い手対策重視

山形 中央会 県大会議案を了承

【山形】JA山形中央会は19日、山形市で理事会を開き、11月17日に同市で開く第27回JA山形県大会の議案を了承した。重点実施事項として、水田農業と担い手対策に特に力を入れる。創造的自己改革の基本目標である農業者の所得増大と農業生産の拡大、地域活性化を柱に据えた。所得増大と生産拡大は、水田フル活用による最低水稻生産力40万ト維持、販売品取扱高の拡大などに努める。担い手対策は、地域・担い手サポートセンターを中心に就農、定着を支援する他、多様なニーズへの対応や大口農家、農業法人などとの結び付き確保に向け、営農指導事業機能強化方針（仮称）を定めて実践する。

地域活性化への貢献では信用、共済や高齢者福祉、相続・事業承継相談などの生活支援機能や支所・支店活動の充実を図る。准組合員を重要なパートナーとしてメンバーシップの強化に努め、食農教育や地産地消にも引き続き力を入れる。JA合併の推進も図る。

中央会は、農協法改正を踏まえて「農協運動の新たな結集軸」を目指し、今後3年間の機能や体制、財政の在り方について今年度中に会員との協議を踏まえ方向付ける。